



運動・スポーツへの関心を高めます

平成29年度 教育行政方針

学びの風土を礎に心豊かにたくましく 郷土の誇りを未来につなぐ一関の人づくり

鈴木功教育委員会委員長が第60回市議会定例会で述べる



はじめに

教育の使命は、地域社会を担っていく人材の育成にあります。生涯にわたって学ぶことができる環境づくりを進めることで、地域の発展と文化の向上につなげたいと考えています。

平成29年度は、37年度までを計画期間とする教育振興基本計画の2年目です。この計画の目標に掲げた学びの風土を礎に、心豊かにたくましく、郷土の誇りを未来につなぐ一関の人づくりの実現に向けて、4つのプロジェクトを重点としながら計画の着実な推進を図ります。

一つ目は、「ことばと読書」「ことばの響き」「ことばの先人」を柱として、子供たちに、言葉の豊かさ、ことばの感性、心の豊かさを育むことを目指す「**ことばを大切に育てる教育プロジェクト**」です。

「ことばと読書」については、学校図書館と市立図書館との連携や読書普及員の配置により、児童生徒の読書活動を推進します。

「ことばの響き」については、幼稚園等や小学校で「ことばの時間」を設定し、ことばの力を育て、心の豊かさを育みます。幼児期の「ことばの時間」については、平成28年度に5つのモデル園で試行した内容に改善を加え、市立の幼稚園、こども園の全園と4つの保育園、合計17園に拡大して実施します。

行い、食育の充実を図ります。

●社会の変化に応じた教育

家庭と連携し、子供たちにインターネットなどの安全利用や、情報モラルが身に付くよう指導するほか、復興教育、主権者教育に取り組みます。

●特別支援教育

幼児期からの就学相談体制の充実を図るとともに、幼稚園には、きめ細かな指導支援員を配置し、集団生活への適応を支援します。また、特別な支援を必要とする子供が増えていることを踏まえ、小学校の学校サポーターを増員し、一人一人に応じた支援の充実を図ります。

●学校適応指導

不登校児童生徒の減少に向け、教育相談員による学校訪問、適応支援教室「TANPOPO広場」による学習支援活動、適応支援相談員による相談活動など、一人一人の状況に応じて、きめ細かに対応します。

●いじめへの対応

各学校の「いじめ防止基本方針」に基いた組織的な対応により、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に努めます。

また、一関市いじめ問題対策連絡協議会を通じた関係機関との情報共有や連携強化を図ります。

●幼稚園

小学校と密接に連携し、就学前教育の充実を図るほか、低所得者層へ

また、小学校では、俳句、短歌詩などの美しい言葉や当市ゆかりの先人を取りあげて、独自に作成した「ことばのテキスト「言海」」を使用し、実践指定校6校で音読に取り組みます。

「ことばの先人」については、博物館学芸員を学校へ訪問させ、先人を学ぶ授業により、郷土を知り、郷土への誇りを育みます。

二つ目は、グローバル化していく現代社会に対応できる人材の育成を目指す「**グローバル人材育成プロジェクト**」です。

キャリア教育については、「地域に学ぶ、地域が育てる」という視点に立ち、引き続き中学生社会体験事業に取り組みます。

さらに、中学生最先端科学体験研修の実施や外国語指導助手を幼稚園、小中学校に派遣し、英語力の向上を図るなど、多様な人との関わり



英語力と国際感覚を養う

の教材費等の補給給付により、子育て世代を支援します。

このほか、幼稚園児数が減少傾向にあることから、こども園化など幼稚園の配置のあり方を検討します。

●学校安全

放射能汚染対策として、学校施設や給食食材等の放射線量を測定します。

また、スクールガードリーダーの巡回指導や地域ボランティアなどの見守り活動の協力をいただきながら、登下校時の児童生徒の安全を確保します。

ともに学び、まことひとをつくる

社会教育の推進

市民一人一人が生きがいのある充実した生活を送れるよう、生涯にわたる多様な学習機会の提供や、学習活動の促進に努めます。

●家庭教育

規範意識や倫理観が、家庭での教育やしつけなどを通して育まれるものであることから、命の大切さや我が家のルールなど、家庭で大切にしたいことをとり決める「いちのせきの家庭教育10か条」の普及を図るほか、学校、家庭、地域などの連携により、さまざまな学習活動を通して、教育の原点である家庭教育を支援します。

●図書館

を通して、創造性やチャレンジ精神、国際理解などグローバル社会の中で求められる力を培います。

また、多文化共生、多様な価値観を理解するうえで土台となる子供たち自らのアイデンティティーを確立させるため、郷土の先人や歴史・文化を題材にした学習を進めます。

三つ目は、地域とともに歩む学校を目指す「**学校と地域の協働推進プロジェクト**」です。

学校の情報や活動の様子をホームページで発信するとともに、保護者や地域住民が学校運営に参加する取り組みなどにより、開かれた学校づくりを進めます。

また、豊富な社会経験を持つ地域の人たちに、ゲストティーチャーや学校支援ボランティアとして協力をいただき、その経験を学校教育に生かすなど、地域社会全体で子供たちの健やかな成長を育みます。

四つ目は、骨寺村荘園遺跡の世界文化遺産拡張登録を目指す「**世界遺産拡張登録推進プロジェクト**」です。

骨寺村荘園遺跡の調査研究を進め、県・関係市町との連携のもと、文化庁に提出する世界遺産拡張登録に向けた推薦書案の作成に取り組みます。

また、地域住民と協働で重要文化的景観「二関本寺の農村景観」の保全活用に取り組むとともに、骨寺村荘園遺跡の理解を深めるための連続講座を開催するなど、世界遺産拡張

市全体の貸出冊数が県内市町村で一番多くなるなど利用が伸びています。今後も図書館サービスの向上に努め、地域の情報拠点としての役割をより高めます。

また、学習ニーズに対応した読書環境の充実にも努めるとともに、地域の特色を生かした運営を進めます。

さらに、学校図書館への支援や、乳幼児健診等で司書が読み聞かせを行うなど、館外サービスに取り組みます。

●博物館

開館20周年事業として、文化庁との共催により、同庁が所有する国宝・重要文化財を含む絵画、武器などを公開する展示会や、一関ゆかりの洋画家・森本草介の作品を紹介する企画展などを開催します。

併せて、芦東山記念館、石と賢治のミュージアム、大籠キリシタン殉教公園についても、展示の充実を図るなど、身近な場所で地域の歴史・文化が学べる場を提供します。

また、旧東北砕石工場の耐震補強工事を完了させ、公開します。

誇りと愛着を醸成する文化の継承

●文化財の保護

文化財の修繕や保護活動への助成などにより、地域の文化財を良好な

登録の気運を醸成します。

このほか、学校統合については、平成30年4月に新生千厩小学校が開校します。また、本寺小学校と厳美小学校、本寺中学校と厳美中学校が、それぞれ統合します。そのため、新千厩小学校の校舎、屋内運動場等を整備するほか、厳美小学校駐車場の拡張など、環境整備を行います。

また、花泉地域の統合小学校整備に係る基本構想等の策定や、東山小学校の新校舎建設に向け、実施設計に取り組みます。

社会を生き抜く力を育む 学校教育の充実

●確かな学力の育成

算数・数学を重点教科に位置づけ、学習支援員による指導や、標準学力検査などの結果を分析したり、フレットの作成を通じて、各学校の「わかる授業」づくりを推進し、児童生徒の学力の向上を図ります。

また、学校と家庭が連携し、児童生徒に家庭学習の習慣が見につくよう取り組めます。

さらに、大学教授などを講師に、算数・数学の研修会を開くほか、指導主事や学習指導専門員を派遣して、教員の授業力の向上にも努めます。

形で後世に伝えます。

また、市内の指定等文化財を紹介する「二関の文化財」の刊行や標柱・解説板整備により、当市の歴史や文化の理解促進と文化財保護意識の啓発に努めます。

さらに、市が所有する歴史民俗資料や出土遺物を保存・展示するため、平成30年度の開館を目指し、旧渋民小学校校舎を活用した公開施設の整備を進めます。

おわりに

教育委員会の組織は、平成29年10月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき、教育委員会の代表者である「委員長」と、事務の総括者である「教育長」を新「教育長」の体制に一本化します。

これにより、教育行政における責任の明確化が図られますが、教育委員会議の合議的性格は変わらず、今後も教育の政治的中立性、継続性、安定性を引き続き確保します。

各施策の推進に当たっては、学校、家庭、地域、企業、行政が共通理解のもと、当市の教育行政に携わる全ての関係者の連携・協働が必要です。

教育委員会としては地域資源を生かした教育行政施策を進め、一関の伝統を未来に引き継ぎ、新たな創造を加えたいと考えています。皆さんのご理解、ご支援、ご指導を心からお願いたします。